

アグリワークポイント

近年、樹ごとに花のバラつきが目立ちます。表年の樹、裏年の樹を判断し、樹の状態にあった管理をしてください。花が多いと思われる樹では、隔年結果は正や高品質果の栽培を目的に摘蕾、摘花を早い時期から行いましょう。

開花前の管理

充実した子房を作ること、品質の良い果実生産につながります。花の充実のため、花芽が見えるころから開花まで、尿素500倍を5〜7日置きに3回程度葉面散布してください。

葉面散布

そうか病は、新芽が展葉する時期から感染が始まります。発芽時期は、地域や樹勢などで変わるため、園地をよく観察し、新梢が1cm程に伸長するころを目安に防除してください。また、発病している枝葉は剪除し、園外に持ち出しましょう。

病害虫防除

また、近年カイガラムシ類の発生がみられます。マシン油乳剤とアプロードフロアブルを混用することで、カイガラムシの防除効果が高まることがわかっています。冬期にマシン油を散布しなかった園地では、気温の上昇とともにミカンハダニの発生が見られるので、防除を行いましょう。

カイガラムシ

マシン油乳剤(97%) 1000倍
アプロードフロアブル 1000倍(14日〜3回)
そうか病

デランフロアブル 1000倍(30日〜3回)

苗木の定植

植えた苗木の生育の良し悪しが、今後の経営に影響します。適切な植え付けと苗木の管理を徹底しましょう。

①苗木の植え穴に、1樹あたり堆肥10kg、溶燐1kg、苦土石灰2kgを投入し、土とよく混和します。

②直根の長い部分と傷んだ所を切り、巻き根は取り除きます。

③1年生は、接木部から30cm程の長さで切り返し、輪状芽がある場合は、輪状芽の下で切ります。2年生は、夏芽が複数出ている中で充実した枝を1〜2本に整理し、先端は枝の充実した部分で切り返します。

④苗木は深植えにせずに、接木部が地表面から見える程度に植え付けます。植え付け後は充分かん水し、ワラや敷き草等で覆って乾燥を防ぎ、倒れないよう支柱で固定します。



樹ごとの
着果管理

果樹林産センター 鈴木 大造